

教 育 研 究 業 績 書

令和 5年5月1日

氏名 熊谷正秀 印

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
近代東アジア史、歴史教育・伝統文化教育	「我が国の歴史」

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
・教育方法の実践例 1. 日韓歴史論争のための基本的前提確立への試み 2. 平成16年度高校生心のサポートシステム「学校不適応対応実践」年間報告書作成	1993年度後期 2005年3月	高麗大学校国際大学院での「日韓関係論」の講義と院生との討論を通じ、歴史論争の方法論確立を試みた。 県立伊川谷高校における教職員による「教育相談」の立ち上げと学校不適応生徒への取り組みを中心として行い、その実践経緯と成果を報告した。
・作成した教科書、教材 1. 東京書籍「世界史B準拠問題集」 2. 兵庫県教育委員会編『日本の文化』Ⅱ. テーマ指導例28. 「日本の中の多様な文化～国際化を好む日本人～」	2006年4月 2007年3月	アジア史関連の問題を担当した。 日本の歩みの中から諸外国との交流を捉えることで、いかに日本文化と日本人が形成されてきたかを気づかせ、日本が自らを相対化させる能力を備えてきた点を理解させたうえで、これからの多文化理解教育を考えさせる内容とした。
・実務の経験を有する者についての特記事項 平成19年度教育課題研修指導者海外派遣プログラム「伝統・文化の教育」スウェーデンに参加し、編集責任者として「報告書」を作成。	2008年3月	スウェーデンにおける「伝統・文化の教育」の現状調査のためストックホルムの市庁・各学校を訪れ、これらをまとめて提言を行った。
・その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
・資格、免許 高等学校教諭二級普通免許状（社会） 高等学校教諭一級普通免許状（社会） 剣道五段	昭和60年3月31日 昭和63年1月14日 平成18年9月17日	昭五九高二普第2515号 昭六二高一普第181号
・特許等		
・実務の経験を有する者についての特記事項 ・その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の 年 月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 『日本から見た朝鮮の歴史一日朝関係全史一』	単	2004年10月	展転社	日本と朝鮮との関係史(古代から現在の問題を含む)を従来の見方及び韓国側の主張を検証しつつあらわした。 1部では韓国政治部門を担当し、韓国の建国以来の内政と外交を概説、2部では現代韓国の様子を日本と比較して紹介した。
『韓国百科』	共	1996年7月	大修館書店	

(学術論文)				
「大アジア主義思想と孫文」	単	1987年	修士論文(関西学院大学大学院)	孫文を援助した日本人を中心に、大アジア主義思想を論じた。
「日本と朝鮮半島との歴史一贖罪史観を克服する教育内容構成への試み一」	単	2004年	修士論文(神戸大学大学院)	高校で日本史・世界史を教える教師を主な対象として、古代から現代に至るまでの日本と朝鮮との関係史を解説した。
「中国吉林省永吉県の朝鮮族」(韓国語)	単	1992年	韓国高麗大学校亜細亜問題研究所『亜細亜研究』第35巻第2号	吉林省永吉県の朝鮮族の歴史を明らかにした。
「1992年の南北対話」	単	1993年	在韩国日本国大使館に提出	1992年に実施された南北朝鮮間の公式ルートにおける対話をまとめた。
「満州と朝鮮人移民について」	単	2001年	兵庫県高等学校教育研究会歴史部会編『兵庫史学研究』会誌46号	清朝末期から戦前にかけて、満州に移住した朝鮮民族の経緯を明らかにした。
「日本人拉致問題を教えるために」	単	2005年	兵庫県高等学校教育研究会社会部会編『研究紀要』第2号	日本人拉致問題を学校現場で教えるための参考書となるものを作成した。
「日本人拉致問題を教えるために(その2)」	単	2007年	兵庫県高等学校教育研究会社会部会編『研究紀要』第4号	日本人拉致問題を実際に教えてみて、生徒の反応やアンケート結果をまとめた。
「伝統・文化の継承に関わる歴史教育—スウェーデン視察から見えた点—」	単	2009年	兵庫県教育再生協議会編『教育再生兵庫』創刊号	スウェーデンにおける「伝統・文化の教育」の現状調査のためストックホルムの市庁・各学校を訪れ、その中で歴史教育についてまとめ、提言を行った。
「学校剣道で教えるべきこと」	単	2011年	兵庫県教育再生協議会編『教育再生兵庫』第3号掲載	H24年度から実施される中学校保健体育科での武道必修化に向けて、指導者として理解しておかなければならない点と、武道の中で剣道の重要性を指摘した。
「韓流ブームの日本」	単	2011年	『アイデンティティ』53号	韓流ブームと韓国の対日意識について。
「阪神大水害とある機関士」	単	2012年	日本教育文化研究所『教育創造』82号掲載。	こころ温まる話として、昭和13年の阪神大水害時の機関士の話を紹介した。
「日本人拉致問題を教えるために - 甲子園短大実践報告 -」	単	2016年	甲子園大学紀要、43、35-47	日本人拉致問題を解説し、学生の反応やアンケート結果をまとめた。
「あの戦争と日本にとって最も大切な存在」	単	2017年	兵庫県教育・文化研究所紀要(教育・伝統文化研究) 1	大東亜戦争に於ける日本軍の戦いふりと占領下の日本の在り様との関係、並びに日本における天皇の存在意義を述べた。
「配慮すればするほど悪くなる日韓関係」	単	2018年	兵庫県教育・文化研究所紀要(教育・伝統文化研究) 2	慰安婦像や徴用工像の増設は日本人の対韓感情を不可逆的に悪化させると韓国側に絶え間なく伝えていく必要がある。
「中国吉林省永吉県の朝鮮族」	単	2019年	兵庫県教育・文化研究所紀要(教育・伝統文化研究) 3	韓国高麗大学校亜細亜問題研究所『亜細亜研究』第35巻第2号掲載分を加筆修正し日本語に訳した。
「日本と朝鮮戦争」	単	2020年	甲子園大学紀要、47、27-30	日本にとって朝鮮戦争は何だったのかを著した。
「平成の終焉」	単	2020年	兵庫県教育・文化研究所紀要(教育・伝統文化研究) 4	原武史『平成の終焉』の内容を批判した。
「新たな日韓関係構築のために」	単	2021年	甲子園大学紀要、48、27-30	現在の日韓関係の問題点を整理し、改善すべき点を指摘した。
「三・一事件についての一考察」	単	2022年	甲子園大学紀要、49、	我が国の立場から3・1事件を考え直した。
「韓国は日本にとって不要な国か」	単	2022年	兵庫県教育・文化研究所紀要『教育・伝統文化研究』No.6	新冷戦を勝ち抜くために日韓関係はどうあるべきか考察した。
「最後の陸軍参謀総長梅津美治郎 —満州時代の父の記憶とともに—」	単	2023年	甲子園大学紀要、50、	梅津美治郎の生涯を、幼少時に満州で過ごした父の記憶とともに著した。

(その他) 学会発表				
「創氏改名を教えるために」	単	2003年	全国社会科教育学会（鳴門教育大学）	創氏改名の実態を明らかにした。
「日本人拉致問題を教える」	単	2004年	教育研究全国大会（宇都宮）	日本人拉致問題をいかに教えるか発表した。
「日本人拉致問題とは一実践報告―」	単	2004年	全国社会科教育学会（鹿児島大学）	日本人拉致問題を実際に教えてみて、生徒の反応やアンケート結果を発表した。
「変動する世界情勢と国際理解教育」	単	2016年	全国社会科教育学会（兵庫教育大学）	ポスト冷戦時代の終焉を迎えた今日、グローバル化とは何かを問い、日本の発信を提案。
「朝鮮戦争における日本の役割」	単	2019年	全国社会科教育学会（島根大学）	朝鮮戦争における日本の隠れた役割を問い直す。
講演・発表				
「韓国人と中国朝鮮族との比較」	単	1989年	中国吉林賞永吉県朝鮮族学校	実体験に基づき、韓国人と中国朝鮮族との比較を行った。
「中国の朝鮮族について」	単	1992年	韓国鐘路区ロータリークラブ	当時の中国の朝鮮族の実態を発表した。
「従軍慰安婦問題について」	単	1992年	韓国鐘路区ロータリークラブ	従軍慰安婦問題についての見方を述べた。
「日韓関係の実情」	単	1993年	西宮ロータリークラブ	当時の日韓関係の実情を報告した。
「1992年度の韓国の対外関係」	単	1993年	関西学院大学大学院文学研究科東洋史研究室	1992年度の韓国の外交を発表した。
「韓国の見方」	単	2000年	教育文化研究所兵庫県支部	韓国をいかに見るかについて発表した。
「私と韓国,日本と韓国」	単	2001年	兵庫県立明石北高等学校職員研修会	私自身の韓国との関わりを述べ、日本が韓国といかに付き合っていくかを発表した。
「朝鮮戦争を教える」	単	2002年	関西自由主義史観研究会	朝鮮戦争が占領下の日本に及ぼした影響を、アメリカの視点も踏まえて発表した。
「国際理解教育における日韓関係」	単	2002年	教育文化研究所兵庫県支部	国際理解教育上、日韓関係をどう捉えるかを発表した。
「創氏改名とは何か」	単	2002年	茨木市婦人学級	創氏改名の実態を発表した。
「これからの韓日文化交流（韓国語）」	単	2003年	韓国大阪青年会議所〈優秀賞及び大阪韓国総合研究院院長賞受賞〉	これからの日韓は、本音で交流していくべきだと主張した。
「これからの韓日文化交流―本音の交流―」	単	2003年	韓国ソウル青年会議所	同上
「創氏改名について」	単	2003年	教育文化研究所兵庫県支部	創氏改名の実態を発表した。
「戦時朝鮮人動員を教えるために」	単	2004年	関西自由主義史観研究会	戦時朝鮮人動員の実態を発表した。
「教科書から見た日韓関係史」	単	2005年	兵庫県神社青年会総会	韓国の歴史教科書に記述された日韓の歴史について発表した。
「教科書問題と日韓関係」	単	2005年	小野の歴史を知る会	日韓の歴史教科書の記述の比較と変化を発表した。
「日韓歴史教科書問題について」	単	2005年	日亜協会	同上
「伝統・文化教育について―スウェーデン視察から見えた点―」	単	2008年	教育再生兵庫県協議会第2回講演会	スウェーデンにおける「伝統・文化の教育」の中で歴史教育についてまとめ、これを日本の伝統教育・歴史教育にどう生かすべきか発表した。
「日本の中の多様な文化」	単	2009年	関西自由主義史観研究会	日本の文化形成に関係した外来文化について発表した。
「学校武道で教えるべきこと」	単	2010年	教育フォーラムin明石	中学校で武道を教える際に注意すべきことを発表した。
「学校剣道で教えるべきこと」	単	2011年	教育再生兵庫県協議会第1回研究大会	中学校で剣道を教える際に注意すべきことを発表した。
「私と韓国,日本と韓国」	単	2011年	日本の心を伝える会講演会	韓国との付き合い方を、自身の経験を踏まえて講演した。
「朝鮮半島の真実」	単	2012年	国際文化研究会	韓国の国定歴史教科書を通してその実態を明らかにした。
「採択教科書分析する」	単	2012年	日本会議東播磨支部例会	東京書籍の中学歴史教科書の内容を分析した。
「中学歴史教科書の問題点」	単	2012年	自民党芦屋支部政策勉強会	朝鮮半島情勢の現状と対日意識を紹介。中学歴史教科書の問題点を指摘。
「竹島問題について」	単	2012年	全日本教職員連盟中部・近畿ブロック会議	竹島問題とは何かを解説。
「韓国の対日意識といかに対峙するか」	単	2012年	日本会議芦屋・西宮支部勉強会	最近の韓国による対日攻勢にどう対応すべきかを主張した。

「韓国における対日意識」 「韓国との付き合い方」 「現代朝鮮半島事情」	単 単 単	2012年 2013年 2013年	日本の歴史文化研究会 日本会議阪神北支部勉強会 靖国神社崇敬奉賛会青年部 関西支部第7回定期大会 日本会議淡路支部勉強会	同上 同上 韓国への対日優越意識と嫉妬について紹介。
「歴史から見た日韓関係」 「朝鮮戦争と日本」 「国防について」	単 単 単	2013年 2013年 2013年	日本の歴史文化研究会 兵庫県神社庁阪神摂津地区 現任神職研修会	日韓の歴史の変遷の違いにより、両国民の意識におおきな差ができたことを主張。 朝鮮戦争の意義と日本に与えた影響について。 最近の中韓の対日攻勢の意味と、日本人による日本の名誉を守る意識と行動が国防の土台となることを主張。
「現代韓国を知る」	単	2014年	甲子園大学市民講座	歴史から見た日韓・日中・中韓関係と、現代韓国の実情を概説。
「日本の底力を引き出す教育を」	共	2014年	教育再生タウンミーティングin兵庫	パネリストとして、兵庫県の教育の問題、これからの伝統・文化教育について提言。
「隣国といかに対峙するか」 「日韓併合前の朝鮮」	単 単	2014年 2014年	日本会議兵庫阪神北支部総会 日本の歴史文化研究会	先祖返りしつつある東アジア情勢を読み解く。 李朝時代に形成された朝鮮社会に根を張る朝鮮の為政者の行動様式と対日意識について。
「どうなる？朝鮮半島と日本」 「今、世界に伝えたい日本～文化融合の地より～」 「国際社会で発信すべき日本の精神－日本人のアイデンティティを取り戻せ－」	単 単 単	2014年 2014年 2015年	甲子園大学市民講座 教育シンポジウム兵庫 西宮青年会議所5月例会	今後の日韓、日朝、中韓、中朝関係を考える。 パネリストとして、「惻隱の情」の実践と継承・発信の大切さを訴え、小学校低学年から剣道を必須化することを提言。 グローバル社会に対応すべき確固たる歴史認識の必要性を説く。
「変動する世界情勢と国際理解教育」 「日清戦争と朝鮮」	単 単	2015年 2016年	全日本教職員連盟中部・近畿ブロック会議 日本の歴史文化研究会	グローバルとは、国際理解教育とは何かを問い、日本が発信すべきことを提案。 日清戦争に至る日朝、清朝、日清関係を読み解いた。
「日露戦争と朝鮮」	単	2016年	日本の歴史文化研究会	列強のアジア関与の中で、日露戦争に至る日韓、韓露関係をたどった。
「これからの歴史教育を話し合おう」	単	2017年	日本の歴史文化研究会シンポジウム（パネリスト）	四人のパネリストが、それぞれの歴史教育の経験をベースに、これからの中学・高校の歴史教育について提言した。
「世界の中の日本文明」	単	2019年	甲子園大学市民講座	一国で一文明を築いてきた日本独自の歩みを、近隣諸国との関係を踏まえて講義した。
「新たな日韓関係の構築は可能か」 「日韓関係の行方 —30数年間見続けた韓国への想い—」 「国際社会と人権」	単 単 単	2020年 2020年 2020年	日垂協会 大阪能率協会 県立御影高校（第二学年人権教育） 日垂協会	悪化する日韓関係の根本原因とそれを打開する方法はあるのかを考察。 現在の日韓関係の問題を押さえ、今後日本として、日本人としていかに応ずべきかを提言。 人権侵害を「してはいけない」から「されてはいけない」と意識すべきと主張。
「新冷戦時代を勝ち抜く日韓関係」 「韓国の行方—新冷戦時代の日韓関係—」 「国際社会と人権」	単 単 単	2022年 2022年 2022年	大阪能率協会 市民対象講座「インターカレッジ西宮」	新冷戦時代を勝ち抜くための日韓関係はどうあるべきかと主張した。 尹政権誕生により、韓国自身が、そして日韓関係、米韓関係が今後どうなるか考察した。 日本人の一般的な人権の捉え方について、国際社会の現状と比較して論じた。
小論文・授業実践報告等				
「西大門独立公園について」	単	1992年	外務省に提出	西大門独立公園開園時のレポート。
「延辺朝鮮族自治州等報告」 「韓国政治日誌」	単 単	1992年 1991～1993年	外務省に提出 在韓国日本国大使館に提出	出張で訪れた延辺朝鮮族自治州の報告書。 当期間における韓国の政治動向を週単位でまとめたもの。
「北朝鮮動向」（翻訳）	単	1991～1993年	外務省に提出	当期間における北朝鮮の動向を月単位でまとめたものを翻訳した。
「日本とアジアの付き合い方」 「韓国という国—軍隊—」 「北朝鮮への食料援助について」 「米中関係と日本」	単 単 単 単	1995年 1995年 1997年	2月7日付『産経新聞』入選 大修館書店『月刊しにか』8月号掲載 6月3日付『産経新聞』佳作 12月1日付『産経新聞』佳作	日本がアジアの国々といかに付き合っていくかを述べた。 韓国がアジアの国々といかに付き合っていくかを述べた。 核開発を進める北朝鮮に対する食糧援助について論じた。 日本がアメリカと中国に対してどう向き合う

「私と韓国、日本と韓国」	単	1998年	明治図書『近現代史の授業改革13』掲載	べきか論じた。 私自身の韓国との関わりを述べ、日本が韓国といかに付き合っていくかを論じた。
「日本再生のために私ができること」	単	1998年	月刊『正論』5月号掲載	毅然とした日本外交を求めるとともに、個人としてもできうる点を論じた。
「朝鮮戦争とアジアの冷戦」	単	2001年	自由主義史観研究会『歴史と教育』第67号掲載	朝鮮戦争がアジアの冷戦を深め、日本の進路が決定的になったことを論じた。
「幼児教育の重要性」	単	2002年	日本教育文化研究所『教育創造』掲載	ある幼稚園の教育を例に挙げ、いかに幼児教育が重要であるかを論じた。
「剣道のすすめ」	単	2005年	日本教育文化研究所『教育創造』掲載	小学生から剣道を行うことが、様々な効用を生むことを論じた。
「伝統文化の教育—スウェーデン視察から見えた点—」	単	2007年	平成19年度教育課題・研修指導者海外派遣プログラム〈独立行政法人教員研修センター主催、文部科学省共催〉報告書(編集長担当)—独立行政法人教員研修センターに提出—	スウェーデンにおける「伝統・文化の教育」の現状調査を詳細にまとめて、日本の伝統教育に対する提言を行った。
「伝統・文化の継承に関わる歴史教育」—	単	2008年	平成19年度教育課題・研修指導者海外派遣プログラム〈独立行政法人教員研修センター主催、文部科学省共催〉個人調査報告書—兵庫県教育委員会に提出	スウェーデンにおける「伝統・文化の教育」の中で歴史教育についてまとめ、これを日本の伝統教育・歴史教育にどう生かすべきか論じた。
「台湾との教育交流記」	単	2008年	自由主義史観研究会『歴史と教育』第132号掲載	台湾の各教育機関を訪れ、交流して感じた点を紹介した。
「日本の中の多様な文化—国際化を好む日本人—」	単	2009年	自由主義史観研究会『歴史と教育』第133号掲載	日本人が、いかに外来文化に敏感で、且つそれを取捨選択して独自のものを創り上げていったかを論じた。
「8月15日の重み」	単	2009年	兵庫県教育再生協議会編『教育再生兵庫』第2号	現代の日本人が8月15日をどう捉えて向き合うべきかを論じた。
「魅力ある教師の育成について」	単	2010年	日本教育文化研究所『教育創造』掲載	魅力ある教師を育てるためには、魅力ある先輩教師が必要であると論じた。
「学校剣道で教えるべきこと」	単	2010年	兵庫県教育再生協議会編『教育再生兵庫』第3号	H24年度から実施される中学校保健体育科での武道必修化に向けて、指導者として理解しておかなければならない点と、武道の中で剣道の重要性を指摘した。
「世界の中の日本文明」	単	2011年	御影高校総合人文コースで授業	一国で一文明を築いてきた日本独自の歩みを、近隣諸国との関係を踏まえて講義した。
「韓国語としての「親日派」」	単	2017年	大阪能率協会『産業能率』2020 7-8	韓国語としての「親日派」の意味を、具体例を挙げて示した。
「韓国の行方—新冷戦時代の日韓関係—」		2022年	大阪能率協会『産業能率』2022	尹政権誕生により、韓国自身が、そして日韓関係、米韓関係が今後どうなるか考察した。